那須烏山市教育振興ビジョン（Ⅳ期計画）原案に関するパブリックコメントの結果

No	区分	意見・提言等	市の考え方
1	P.28	（小中学校における屋内運動場の空調設備の設置率） 基準値（2025）０％・目標値（2030）100％各方面からも要望のあった市内全７校の小中学校（①荒川小②江川小③南那須中④七合小⑤境小⑥烏山小⑦烏山中）の屋内運動場に2030年までに設置するという強い意気込みが伝わってきました。 まさかとは思いますが、2030年までに既定路線である「江川小学校」「七合小学校」「境小学校」を統廃合し残った４校のみに設置して 100％目標達成とする。もしくは南那須地域の①～③の小中学校を義務教育学校に集約して残った３校のみ設置する予定で 100％とする魂胆ではございませんでしょうか。計画性もなく目標値を設定しているはずがありませんので、具体的に記載をお願いいたします。いずれにしても災害時避難所も兼ねる小中学校の体育館ですので空調設備の設置は緊急かつ重要です。「災害に負けないまちづくり」の為にも国の学校体育館空調整備支援と市が積み立てた各基金を活用し一刻も早く全７校設置をお願いいたします。栃木市は29年度までに全29校に整備すると発表しています。	小中学校における屋内運動場の空調設備の設置率について、令和７年度末時点では０％です。そのため、本ビジョンでは、児童生徒が安心して快適に学べる環境を確保するため、空調設備の整備を推進し、安全・健康・学習効果の向上を図ることを P.28 施策 4-2 で明記しました。また、持続可能で質の高い教育環境を整備するため、将来の児童生徒数の変化や地域特性を踏まえ、小中学校の適正規模・適正配置などの状況に基づいて計画を策定し、取り組んで参ります。空調設備設置に関する計画は、本ビジョンの枠組みではなく、設置場所の優先順位や予算の検討等、詳細な調整を行う必要があるため、個別の整備計画に基づいて具体化いたします。具体的な計画については、ご意見のとおり学校体育館は災害時の指定避難所を兼ねる施設であることから、関係機関と十分な協議を行い策定して参ります。

No	区分	意見・提言等	市の考え方
2	P.14	知識を教わるだけでなく問い立てる、考える、意見を交わす、「なぜ」、探求心と、素晴らしい言葉が並んでいます。まずは、そうなるためのプロセスを考えると良いと思うのです。 何かを見て、聞いて、触って、やってみてハッと驚く、感激する、何だこれは！と思う、そういった感性を通じて感じ取ったことから興味につながり更に知りたくなる、深くのめり込む。その様なプロセスは、勉学でも社会人になってからの技術やビジネスの世界でも使えるものと考えます。少なくとも私はそうでした。 さて、那須烏山市には有史以前からの歴史として独特の地形や地質、化石等があり、人の歴史では縄文式住居や古墳、鉄の製錬、数多くの城跡、お祭り等の文化行事と、文化財の宝庫です。学習の場として、それらをもって利用すると良いです。例えば、座学抜きに生徒を川に連れて行き、何が面白いか、驚いたか、感じたかを話させてみる。川の蛇行、崖の模様、石の形や色、流れる音、風や風の匂い、空を舞うトンビ、・・、何でも良いのです。城跡に行くと、平らな主郭だけでなく堀や土塁、曲輪がある。何のため？・・・そう感じるだけで十分です。堀がボブスレーのコースに似ていると感じても良いし、小さな野草をきれい！と感じたのでも良い。もちろん、城の歴史を知りたくなったのでも良い。まんべんなく興味を持つのではなく、人それぞれの興味で良くて、お互い刺激し合えれば良いのです。 そういった現地で感じるものを得	「令和の日本型学校教育」では、すべての子どもが自らの可能性を伸ばし、共に学び合いながら成長することが重視されています。自ら問いを立て、考え、仲間と意見を交わしながら新たな価値を創り出す力が求められていることから、本市では探求的な学習活動や発表の機会を充実させ、教科横断的な学びや地域課題を題材とした探求を通して、主体的に学ぶ意欲と課題解決力を高めて参りたいと考えております。 ご意見をいただきました、平均点の高さや協調性よりもとびきりの強みを持つ高い創造性を持つ人材の育成につきましては、本ビジョンのＰ.15に記載している「思考力・判断力・表現力等を育む探求的学習・表現活動の充実」、P.25 に記載している「郷土芸能・地域史・文化財を活用した体験学習の充実」及びP.34「公民館・図書館等による多様な講座・読書活動の推進」の今後の事業の参考とさせていただきます。

		た後座学に移る教え方を試されてはいかがでしょうか。 図書館の利用者数も現在は目標値の半分に低下しているとのこと。読書は主体性が求められ、図書館の蔵書も揃っている市なのに、それはもったいないことです。これも、学校の教育の場として、生徒を図書館に定期的に連れて行き、どんな本でも良いから好きに読ませる。何か感じたことはあったか、面白い本を見つけたかを話させてみる、それで良いのです。子供の時にはつまらなくても、大人になった時に行くきっかけとなるだけで良いのです。 上記の背景を以下に記します。 良い者を廉価に大量に政界に届けることが得意だったかつての日本の企業では、教育については平均点の高さと協調性の高さが重要でした。しかし、そういった企業は現在元気がありません。円安が進んでいるのも、それが一因です。 平均点の高さや協調性は、企業であればわずかずつの改善には有効ですが、他社に先駆けた魅力的な商品やサービス、ビジネスモデルを創造するのには、あまり有効ではありません。逆に、弱みが多くても、とびきりの強みを持つ人の方が創造性が高いと言われています。そういった人材を育成する意味から、今回、意見いたしました。	